



りんちゃん



横山学長開会あいさつ
/ZOOM



社大同窓会

2023
vol.91

同窓会×大学
パートナーシップ推進

【セミナー開催報告】 同窓会社会福祉セミナープロジェクト

母校との連携による社会福祉セミナーを開催しました。

第1回「子どもの未来とソーシャルワーク」【10月奈良会場】・第2回「社会福祉法人の今後のあり方を考える」【11月岩手会場】は、オンラインでの参加もでき好評でした。

そばっち





10月16日(日) 社会福祉セミナーin奈良

会場：天理駅南団体待合所（通称「ダンマチ」）



実践報告／ニコニコ食堂老沼代表



奈良同窓会受付の皆さん

「社会福祉セミナーin奈良」を終えて

木村尚文同窓会副会長から開催を打診されたときは「同窓生数も少ない小規模支部でいいのかな」とも思いましたが、私が前職のときからお世話になっている先輩の依頼を無碍にすることもできず(笑)、お引き受けしました。私は行政、社協、天理教関係などの後援名義を取りに走り回っただけですが、諸先輩や関係者のご協力で無事にセミナーを終えることができました。

会場の「天理駅南団体待合所」は、幼児の遊び場所や中高生の学習スペース等とともに、イベント等が行える「開かれたコミュニティ空間」です。こうした場所で、母校や天理大学の教員による講義とともに天理の実践を紹介し参加者とともに共有できたことは主催者としてこの上ない喜びです。

奈良県支部長 渡辺一城

11月19日(土) 社会福祉セミナーin岩手

会場：盛岡市観光文化センター “プラザおでって”



岩手同窓会の皆さん



パネルディスカッション

山羊の活躍もヒントに ——岩手でもセミナー開催——

「社会福祉セミナーin岩手」が、2022年11月19日(土)岩手県盛岡市の「プラザおでって」で開催されました。会場参加は26人、オンライン参加が10人でした。

武居敏同窓会副会長が「人口減少と歩む社会福祉法人」をテーマに基調講演、地域社会との連携を強調し「地域に聞く、働きかける、活かす」と結びました。

パネルディスカッションでは、細田重憲氏が障害者の生活

を支える専門職集団として社会福祉法人の存在価値を高めると語りました。野田大介氏は、高校生の学びのプロジェクトや山羊による除草の取組を紹介、福祉の枠を飛び出そうと呼びかけました。山羊を巻き込んだ楽しい仕掛けに興味がそそられました。

岩手県支部長 右京昌久





5/27

同窓会×大学による 社会福祉セミナーin埼玉

お申し込み案内



同窓会では、この度、次の通り「社会福祉セミナー」を企画いたしました。どなたでも参加いただけますので、ご友人、職場の皆様などお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

【テーマ】 障害者福祉とソーシャルワーク ―障害者福祉サービスの今後のあり方を考える―

セミナー		実践報告
障害者権利条約・総括所見が問いかける障害者福祉の改革  佐藤久夫氏 (日本社会事業大学名誉教授、日本障害者協議会理事／政策副委員長)		福祉の仕事・魅力について  久木元駿氏 (社会福祉法人常盤会 関東事務室長)
障害者福祉の未来とソーシャルワーク(ソーシャルワーカーとして大切にしたいこと)  曽根直樹氏 (日本社会事業大学専門職大学院准教授)		
日時	2023年5月27日(土) 13:30～16:00(受付は13:00)	
会場	埼玉会館4階会議室 さいたま市浦和区高砂3-1-4 / JR浦和駅(西口)下車徒歩6分	
開催形式	会場とオンラインの両方で開催 会場参加30名 / Zoom参加50名 参加費無料、どなたでも参加できます	
お申込方法	下記の「お申し込みフォーム」よりお申し込みください。 ⇒https://fs220.xbit.jp/b646/form2/ ＊お申し込みいただいたアドレスに視聴するためのURL又はご来場の案内等をお知らせします。 「同窓会HP」からもお申し込みできます。⇒ http://jcsw-alumni.com/	
お申込期間	2月15日から5月15日まで	



11月15日

学部5期同期会開催

～清澄庭園「涼亭」の集い～

東京都江東区にある、都立「清澄庭園・涼亭」にて、同期名簿に記載される99名のうち、23名の出席でした。遠くは糸満、高松、岡山、宇治、金沢等からも、遠路なればこそ、この日を楽しみに集い、懐かしくも親しい交わりの時をもちました。

前回の同期会は、2018年5月で、二年後の開催を期しましたが、コロナウイルスのため、延期に次ぐ延期を経て、4年半ぶりの開催となりました。

卒後57年が過ぎた同期生は、全員が傘寿を迎える年齢以上となりました。20世紀の終わり頃に開催した同期会で掲げられたスローガンは「君は21世紀まで生き残れるか」でした。

【これからの活動について】

会の終わりに、今後の5期同期会をどのように考えるか、についての意見交換の機会をもちました。今回の企画を担当した幹事会では、「幹事を決めての同期会は今回をもって終わりとす

事を提案する」としていました。しかし、今後もしも、との声が多く、結局、今後も同期会の企画は続くことで、現幹事が方向性を整理する、ということになりました。

大学を卒業してから57年、日本社会事業大学で学び、交わった日々は、中身は違えど、一人一人、今に至るまでいかに貴重なものであるかをあらためて思わせられる同期会でした。



▼幹事名・ 佐野紘子、白井利明、常友陽子、並木信一、山本欣司(代表)、吉崎一紘、吉崎直子 (並木信一記)



大作戦の学生オールスタッフメンバー

さんさんさん



「さんさんさん」って？

「まちづくり」をテーマに、地域を中心として活動するボランティアサークルです。

特に清瀬市内を中心に、様々なイベント（市民まつり、商店街の夏祭り、町の会議など）に参加しています。

「地域住民と関わりたい!」「ボランティアをしたい!」「わくわくするイベントに運営側として携わってみたい!」など、参加するメンバーの動機は様々。多方面での活動や交流を通して、新たな学びと体験をすることができます!



さんさんさん活動メモ 令和4年度

7月 納涼盆踊り大会
(主催:「銀座会(商工会)」様) 当日ボランティア

12月 「集まれ! 落ち葉でお芋大作戦!」
(清瀬エンジン主催イベント) への参加



活動写真



公道の脇に溜まる落ち葉を箒で集める様子。車に注意しながら地域の方や他の大学生を混じえてグループごとに行いました。



袋いっぱいの落ち葉。焼き芋の焼きに大活躍。



活動最後に参加メンバーでパシャリ。一仕事を終えて清々しい笑顔です。

これからの活動について

一昨年から、新型コロナウイルス蔓延による影響を受け、例年参加させて頂いていた清瀬のイベントの大部分が中止になってしまいました。そのため、しばらくボランティア活動を行うことができませんでした。しかしそんな中、今年は、清瀬のイベントが一部復活し、活動を再開することができました。それだけではなく、大学のボランティアセンターの紹介等から新たなボランティア活動に結びつくこともあり、大変嬉しく思います。

また、今年度は1年生が2名、2年生が1名加入してくれました! 新たな仲間とともにこれからも「清瀬」のイベントに大学生として積極的に関わっていきたいと思います!

▶皆様へのメッセージ

いつも皆様には、私達大学生ボランティアに活動の機会を頂き、そして取り組みを見守って下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。加えて、「清瀬」でボランティアを通して様々な方と交流できることを幸せに思います。

「さんさんさん」は、「清瀬」で大学生の私達だからできることに誠心誠意取り組んでいきたいと考えております。もし、「このイベントに大学生の力があつたらなあ...」と思われた際は、ぜひお声掛けくださると嬉しいです。

また、「さんさんさん」では公式ツイッターを運営しております。機会がありましたら、ぜひ御覧ください。これからも、「さんさんさん」として「清瀬」で活動してまいりますので、何卒宜しくお願い致します。

最後に、「さんさんさん」は随時サークルメンバーを募集しております。少しでも興味がありましたら、是非公式ツイッターへご連絡ください。清瀬のイベントと一緒に盛り上げる同志をお待ちしております。

さんさんさん

こんにちは! 「さんさんさん」です。わたくしたちは「まちづくり」をテーマに、清瀬市内のイベントに参加し、ボランティアとして活動しています!

特に「清瀬市納涼盆踊り大会」や「清瀬市市民まつり」など、市内のイベントに参加し、地域の方との交流を深めています! 幅広い年齢層の方と交流ができて楽しい機会です!

ぜひお声掛けください!
<Twitter> @sannsan333
活動の様子などを投稿しています。ぜひ覗いてみてください!
フォロー、DMお待ちしております!



母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

学生創設団体『たこやきばらだいす』



A photograph showing two young girls sitting at a table, painting Easter eggs. The table is covered with a newspaper and many small white eggs, some of which are already painted in various colors like yellow, blue, and pink. The girl on the left is wearing a white lace-trimmed top and has a blue bow in her hair. The girl on the right is wearing a white t-shirt and a plaid skirt. Other children are partially visible in the background, also engaged in the activity.



<コロナ禍>に負けるな!

オンラインによる第2回

『福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会』

経験豊富な先輩達が在校生をサポート

◆◆◆同窓会母校応援プロジェクト◆◆◆

2022年6月～オンライン開催決定!

◆ 全学年参加可、複数施設参加可、予約制
参加希望の方は下記フォームより!

<https://forms.gle/EowV4L2013hV7fwT6>

5月25日 申し込み締め切り

※参加申し込み後、各施設よりメールが届きます!

福祉現場にいるOB・OGが皆さんの就活をサポートします。

社研究大会に参加する学生などを対象とした「就活・全国フェア in 社大」(20年から「福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会」を開催しています。

しかし、この2年半前からのコロナ禍により、2021年(令和3年)は同窓会の自主企画による『初のオンライン開催』。今年は2回目のオンライン交流会を実施し、福祉現場の経験豊富な先輩達が、在校生をサポートしました。

参加施設は、17法人・延26施設(高齢9/障害13/児童4施設)。在校生1~4年生・延べ111人が参加しました。

同窓会では従前より全国の支部を通じて、卒業後に故郷や地方に就職を考えている在学生の求人情報の収集サポートなどの就職支援を行ってきたところですが、2016年(平成28年)からは毎年6月の母校社会福

ご担当されたOB・OGに お聞きしました

Q: オンライン開催にあたりご苦労されたこと・振り返ってのご感想について



茨城県:
芳香会
酒寄学様・学部36期
/院前14期

今回、初めて交流会へエントリーし、2名の学生さんに参加をして

いただきました。

私を含めた2名の社大OBから、それぞれ障害福祉、司法福祉におけるソーシャルワーク実践の醍醐味について話をし、意見交換をしました。

学生さんとソーシャルワーク実践の醍醐味について共有できる貴重な機会を得られたことに、心から感謝致します。



北海道:
はるにれの里
塚本由希乃様
学部46期

昨年も参加をさせて頂き感じたのですが、在学生との交流の機会

は、卒業生としても大変懐かしい思いと、何か役に立つことができればという気持ちになります。学生にとっても、全国にいる色々なOBの人たちとの当機会は貴重だと思います。

例えばSNSの活用も視野に入れるなど、今後、より多くの人と交流の形ができていくと良いと思います。

相談援助演習へのサポート支援も

また、この交流会参加施設のOB・OGの皆さんには大学が3年次に実施している「相談援助実習」においてもサポート支援(新型コロナウイルスの影響等により規定の時間数を満たさなかった学生に対する「実習に代わる学内演習」に協力)をしていただきました。



東京都:
日本赤十字社
総合福祉センター
横山裕子様・専院14期

倉持先生からの声掛けで学内の演習を担当させていただきました。

グループで事例を通して、利用者の望み生活、本人や家族への支援について検討しましたが、クレームの事例では、こちらが想定していなかった「時間外労働」に着目した学生が散見し、これらの仕事のあり方について「考えることができた。新鮮な学びを与えてくれた学生と倉持先生に感謝いたします。

さらなるネットワークの構築を目指して

現在もなお、新型コロナウイルス収束の見通しが立たない状況が続いていますが、これからもハココロナ禍に負けず「在校生のキャリアアップ」や「実習へのサポート」を通して福祉の魅力・仕事をもっと伝えていけるよう、さらなる同窓生と在校生のネットワークの構築に貢献してまいりますので、同窓生の皆様の引き続いての支援をよろしくお願いいたします。

同窓会活動と大学のさらなる連携の強化目指して!

■ 8月20日

第2回運営委員会・事務局合同会議

本年度事業計画の進捗状況の確認外以下の項目について意見交換と情報共有を行いました。

- 社会福祉セミナーの推進について
- 福祉現場で活躍するOB・OGとのオンライン交流会
- 同窓会会員名簿など

■ 社会福祉セミナー

・10月16日

「in奈良」

・11月19日

「in岩手」

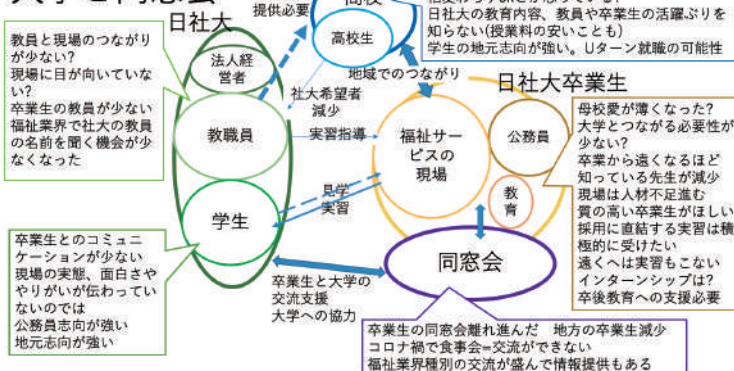


■ 12月17日 合同役員会議

「同窓会活動の課題及び活性化に向けて、同窓会本部として何ができるか」を主テーマに意見交換しました。



大学と同窓会



大分県支部後藤事務局長を偲ぶ会

11月5日、昨年亡くなられた大分同窓会の後藤政浩氏(事務局長)を偲ぶ会を開催しました。

当日は、野球部OBを中心に、東京・福岡・佐賀・大分から6人が集まりお墓参りをした後、後藤さんの実家にてご家族とともに昼食会の形で偲ぶ会が開催されました。



同窓会「五味基金」による 学生支援奨学金について

昨年11月から2023年度母校社会福祉学部の入試が始まっています。この奨学金は、本同窓会の「五味基金」から学部入試において日本社会事業大学に入学する新入生に対し、1名につき50万円を奨学金として支給する奨学金事業です。

助成基準は、「児童養護施設に入所されている児童」が対象となります。(同窓会支部からの推薦に基づき、同窓会役員会で審査・決定) 社大入学予定者で候補者がいる場合は、同窓会事務局に電話等で連絡・相談ください。

【お問い合わせ】 日本社会事業大学同窓会

TEL: 042-496-3053 E-mail: kouyu@jcsu.ac.jp

同窓会オリジナルボールペン



大学フリクション 蛍光ペンセット



抽選で10名様に

住所・氏名を次のあて先までご連絡ください。

〈郵便の方〉 〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30
日本社会事業大学同窓会

〈FAXの方〉 042-496-3051

〈E-mailの方〉 kouyu@jcsu.ac.jp

“母校・在校生への支援”のため 会費納入にご協力を

同窓生の皆様には会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき、同窓会の学生教育支援などへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会会長 岩崎俊雄



スマートフォン決済ができるようになりました

今までと同じ振込用紙で郵便局やコンビニでお振り込みされる他、スマートフォン決済ができるようになりました。※「スマートフォン(アプリ決済)」をご利用の場合は、振込用紙裏面をご確認の上ご利用ください。

創設者の想いを受け継ぎ 地域密着型の社会福祉を实践する

ルポルタージュ

栗原 信
(くりはら まこと)

学部30期
(1990年卒)



1967年6月17日山梨県韮崎市生まれ。1990年日本社会事業大学社会福祉学部・社会事業学科卒業。社会福祉・医療事業団勤務を経て、2006年に社会福祉法人信和会入職。2011年5月より理事長就任。韮崎市障がい者施策推進協議会委員、日本知的障害者福祉協会政策委員、山梨県社会福祉法人経営者協議会副会長他。2022年度社会福祉学会(木田)賞受賞

山梨県韮崎市で障がい者や高齢者支援に関わられていますか？

信和会は、山梨県中北地域の韮崎市穴山地区にある障がい・高齢事業を行っている社会福祉法人です。1986年5月に東京都の都外施設として精神薄弱者更生施設「穴山の里」を開設しスタートしました。当時は、バブルの時代で福祉施設を造られると周囲の土地の価格が低下すると云われ、東京都では地価の高騰と建設反対でやむを得ず都内での建設をあきらめ、施設建設を都外に求めています。その窮状を当時の東京都福祉局長の金平輝子氏から切々と訴えられた栗原信雄氏(創設者・私の父)は、少しでも役に立つことができればと考え、先祖から引き継いだ1万坪の土地に誘致することを決意したそうです。そして、家族会議が行われこの話を聞かされました

が、福祉施設のイメージも障がいのイメージもなくなったただ驚いたことをいまでも覚えています。

現在に至るまでの私の経歴と現状について

当時地域の障がい者に対する認識はあまりなく、全国的に福祉施設の開設は困難な環境にありましたが、その後地区の区長会、近隣の皆様からの賛同と韮崎市議員協議会からの賛成をもらい社会福祉法人の設立と施設建設の運びとなりましたが、これまでまったく経験のない分野であり、母と1つ上の姉が施設職員として勤務することになりました。私は、まだ韮崎高校の生徒でしたが家族の頑張っている姿を目の当たりにし、将来は自分が担っていくかなければならないという重責を感じ、日本社会事業大学への進学を決意しました。入学は原宿校舎でしたが1989年4月の4年次から清瀬に移転し清瀬校舎での第1回卒業生となりました。専門ゼミは京極高宣先生。卒業論文のテーマは「高齢化社会とシルバースービスに関する一考察」であり、学友の潮谷有二氏らと濃厚な4年間を過ごしました。

卒業後は、卒業論文のテーマであった「高齢者サービス」の見識を広げるため、社会福祉・医療事業団(現、福祉医療機構)に入職し、社会福祉・医療施設整備貸付事業、共済、保険の各部門、厚生労働省出向(1997〜98年・2年間)と多岐にわたる福祉関連業務を経験しました。

2006年4月信和会入職。同



年山梨県で初めての全室個室でのユニット型の特別養護老人ホーム「穴山の杜」が開設され、高齢者分野への事業にも参画することになりました。

信和会は、社会活動にも熱心に取り組まれていますか？

前述のとおり設立当初は経営についても素人であり、建設費にほとんどの資金をつぎ込んでしまい、運営費が2か月後に入金されることをわからずに人件費等の必要資金を理事や関係者の方に相談して工面したそうです。企業・団体から軽トラック等備品の寄贈や助成金の協力もしてもらっていたようです。そんな厳しい経営の中でも、障がいの理解と建設を許可していただいた地域への感謝を込めて、二つの活動に力を入れています。

その一つ目が「地域環境美化活動」です。無人駅となったJR穴山駅舎などの清掃を開設以来現在も継続して行っています。この活動は障がい者に対する理解にもつながり2019年秋の褒章「緑綬褒章」

(社会奉仕・ボランティア活動)をいただくことになりました。もう一つが、「穴山地区の環境整備活動」です。穴山の町を桜の町にしたいと廃棄道やバイパス沿いに利用者と職員で桜の苗を植え、管理し、今では穴山の町は桜の花でいっぱいとなり、今年も多くの方が桜を見るために穴山の町を訪れてくれます。清瀬の母校キャンパスにも河津桜を植樹させていただきました。



学生時代の思い出は

私は、大学3年まで竹下通りを使い原宿校舎で学び、4年次の1年間は新築の清瀬校舎に通ったどちらの校舎も経験した卒業生です。原宿校舎は、重厚で素敵な建物でしたが、夏は暑く、冬は寒い中で講義を聞きました。社大はゼミの教授だけでなく、他の教授と飲む機会も多く楽しい学生時代でした。また、サー

クルのコンパがあると酔いつぶれた学生を大学まで連れてくるのに、原宿の町を夜中にリヤカーで迎えにいったものでした。

今後の活動と抱負などについて

信和会は障がい分野の1施設から発足し、現在は障がい8事業所及び高齢2事業所の経営を行っています。この間の福祉制度の変遷は激しく幾多の制度改革に振り回されてきましたが、これらを前向きに利用者本位の施策ととらえて事業活動を広げてきました。

現在の少子高齢・人口減少社会が急速に進行する中にあることは今後における事業展開に与える影響は大きいものと想定していますが、法人の基本理念である「接遇」「感謝」「向上」のもと子ども障がい者も高齢者も共に生きる地域社会の実現にいささかでも寄与したい。そして、何よりも創設者の想いを受け継ぎ地域に無くてはならない施設として、「穴山に信和会が在ってよかった!」と認められるよう「層」の努力をしていきたいと思っています。

